

博士課程教育リーディングプログラム 平成23年度プログラム実施状況報告書

採択年度	平成23年度		
プログラム名	「超成熟社会発展のサイエンス」	申請大学長名	清家 篤
申請大学名	慶應義塾大学	プログラム責任者名	長谷山 彰
申請類型	オールラウンド型	プログラムコーディネーター名	大西 公平

<プログラム進捗状況概要>

1. プログラムの目的・大学の改革構想

本プログラムは、平成23年から平成29年の7年間に亘って、今後日本と世界が直面する超成熟社会を持続的に発展させるという21世紀の人類共通課題に、理工学、医科学、政策・社会科学が文理融合した、主専攻修士・副専攻修士・博士(MMD)、あるいは主専攻修士・博士(+副専攻証)(MD)の5年一貫大学院プログラムを構築する。骨太の専門に加え独創的な企画力と高いマネジメント力を持つ博士リーダー人財の輩出を目的とする。分野横断的な複合課題へ柔軟に対応できる大学院への組織改革や、21世紀COE、G-COE等26件の拠点形成型プログラムによりここ10年間で充実させてきた大学院の高度人材育成プラットフォームを持続的にさらに発展させ、今後の大学院改革のパイロットプログラムとするべく、本プログラムでは文理を横断した大学院研究科と外部産官との教育コンソーシアムが共鳴して博士人材育成とそのキャリア形成を進めるという、従来にない野心的な取り組みを展開する。

2. プログラムの進捗状況

事業開始時期が10月から12月に変更されたために初年度のRA採用は中止し、平成24年度の採用に向け体制と環境の整備を進め、春学期のRA募集活動を実施した。具体的には、実施・運営体制に関しリーディング大学院プログラム委員会、教育コンソーシアム（海外連携教育機関、企業、政府・自治体関係者等）やボード会議の設立、特任教員、非常勤講師、メンターの任用手続き等を行った。構想・計画については、リーディング大学院プログラム委員会学習指導による各研究科学則の改定着手、リーディング大学院共通カリキュラムとそのシラバスを策定した。関係者が国内外の何れからでもアクセス可能な遠隔講義・対話のプラットフォームとして日吉西別館（旧KBS）にクラウドシステムの構築を進めた。また、塾内外へ向けた本プログラムの広報活動と情報発信を目的に、ポスター、パンフレット、Webホームページ、等を作成した。待ったなしの高度博士人材育成に向け産学官がメッセージを発する第1回「超成熟社会発展のサイエンス」シンポジウムを三田キャンパスで開催した。春学期のRA採用に向けて、募集要項の作成、説明会の開催、ホームページによる告知を行い、次年度からの本格的活動の準備を進めた。